

# 2022(令和4)年度全国学力・学習状況調査の結果の分析 (国語)

池子小学校

調査結果の概要及び教科の課題等 (○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等)

<p>結果の概要</p>	<p>○平均正答率は全国とほぼ同じ (+5%以内) でした。          ○領域別、観点別、問題形式別で正答率をみても、全国平均から大きくかけ離れるところはなく、大きな課題は見られません。          ●正答数が全国の中央値に達しない児童が 5 割近くいます。          ●問題形式が選択式である場合の正答率の高さからみると、短答式・記述式である場合の正答率は低めと言えます。特に、「文章で書いて答える」ことに苦手意識のある子が多いようです。</p>
<p>言葉の特徴や使い方に関する事項</p>	<p>○話し合いの様子の一部を表した文章を読んで、それぞれの発言の理由を問う設問への正答率は、全国平均を上回っていました。          ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことを問う設問への正答率は全国平均を下回っています。特に「反省」の正答率は、全国平均を5%以上下回っています。「親しむ」の無解答率は全国平均を5%以上、上回っています。</p>
<p>話すこと・聞くこと</p>	<p>○話し合いの様子を表す文章を読んで、自分の考えを 50 字から 80 字にまとめて書く設問の正答率は全国平均を 5%以上、上回っていました。</p>
<p>書くこと</p>	<p>●同じ内容を表した二つの文章を読み、一方の文章の良さを 60 字から 100 字にまとめて書く設問の正答率は、全国平均を 5%以上下回っていました。無回答率も高めでした。</p>
<p>読むこと</p>	<p>○物語文の一部を読んで、問いに答える設問の正答率は、いずれも高かったです。特に、「登場人物の相互関係について、描写を捉える」設問と、「表現の効果を考える」設問は、全国平均を 10%以上、上回っていました。          ●物語文から伝わってくることをまとめ、10 字から 30 字で推薦する文章を書く問題の無解答率が、全国平均よりも 5%以上高くなっていました。</p>
<p>児童質問紙 国語に関連する質問 問 49～52</p>	<p>○4 件法の回答を 2 件法にして見ると、国語の学習が大切だと思っている割合が全国平均よりも 5%以上高くなっています。          ●全ての解答を文章などで書く問題で、最後まで解答を書こうと努力した、と答えた児童の割合が、全国平均を 5%以上下回っています。          ●解答時間が充分だった、と答えた児童の割合が、全国平均を 5%以上下回っています。</p>

# 2022(令和4)年度全国学力・学習状況調査の結果の分析 (算数)

池子小学校

調査結果の概要及び教科の課題等 (○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等)

<p>結果の概要</p>	<p>○平均正答率は全国とほぼ同じ (+5%以内) でした。          ○領域別、観点別、問題形式別で正答率をみても、全国平均を大きく下回るところはなく、大きな課題は見られません。          ○正答数が全国の中央値を上回る児童が、6割強います。          ○一問を除いて無解答率は0で、全員が算数の学習に前向きに取り組もうとしていることがわかります。          ●強いて問題点を挙げるとすれば、3つのグラフから必要な情報を取り出す問題、図形を作図する方法を問う問題の正答率が低めだったことから、筋道立った思考を苦手とする子が若干多めなのかもしれません。</p>
<p>数と計算</p>	<p>○この領域の設問は6問ありましたが、4問の正答率が全国平均とほぼ同じ (+5%以内)、二つの数の最小公倍数を求める設問と、問われている値を、加法と乗法の混合式と言葉を用いて正しく求める設問は5%以上、全国平均を上回っていました。</p>
<p>図形</p>	<p>○図形の性質を理解して「プログラム」をつくることができるかを見る設問が4問出題されました。長方形に関わる設問の正答率は全国平均とほぼ同じ (+5%以内)、三角形と平行四辺形に関わる設問の正答率は5%以上、全国平均を上回っていました。          ●4つのプログラムが示され、ひし形をかくことができるプログラムはどれかを選ぶ設問は、正答率が全国平均を5%以上下回っていました。</p>
<p>変化と関係</p>	<p>○4つの領域のうち、この領域の正答率が最も大きく全国平均を上回っていました。1問は全国平均とほぼ同じ (+5%以内)、1問は5%以上、2問は10%以上、上回っていました。          基準量、比較量、割合の関係や、伴って変わる二つの数量の関係について考察することについては、とてもよく理解している、と、言えます。</p>
<p>データの活用</p>	<p>○目的に応じてデータの特徴や傾向を捉えて考察する設問が3問ありました。うち、2問の正答率は全国平均とほぼ同じ (+5%以内) でした。          ●目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができるかを見る設問の正答率は、全国平均を10%以上下回りました。一つの円グラフから情報を読み取ることはできても、自分にとって必要な情報がどの円グラフから読み取れるのか、と問われるとわからなくなってしまう児童が多めだということがわかります。</p>
<p>児童質問紙 算数に関する質問 問 53~60</p>	<p>○算数に関する質問への回答集計結果には、特に問題点は感じられません。4件法の回答を2件法にして見ると、算数が好き、算数の学習が大切と思っている割合が全国平均よりも5%以上高くなっています。</p>

# 2023(令和4)年度全国学力・学習状況調査の結果の分析 (理科)

池子小学校

調査結果の概要及び教科の課題等 (○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等)

<p>結果の概要</p>	<p>○平均正答率は全国とほぼ同じ（－5%以内）でした。</p> <p>●領域別、観点別、問題形式別で正答率を見ると、一部に全国平均を5%以上下回るものがあります。</p> <p>●正答数が全国の中央値に達しない児童が5割います。</p> <p>●だいたいはわかっているのだが、細かく問われると、あやふやになってしまう、という児童が多いようです。</p>
<p>「エネルギー」を柱とする領域</p>	<p>○この領域の設問は4問ありましたが、2問の正答率が全国平均とほぼ同じ（+5%以内）、実験で得た結果を根拠にして自分の考えをまとめて記述する設問は5%以上、全国平均を上回っていました。</p> <p>●日光は直進することを理解しているかどうかを見る設問の正答率は、全国平均を5%以上下回っていました。</p>
<p>「粒子」を柱とする領域</p>	<p>○水溶液の凍り方について、実験結果からのまとめを選ぶ設問は、正答率が全国平均を5%以上、上回っていました。</p> <p>○●メスシリンダーの正しい使い方を問う問題では正答率が8割を超えるにもかかわらず、「メスシリンダー」という器具の名称を問う問題では正答率が2割を切ります。</p> <p>●自然の現象について気付いたことが、どんな「問題」につながるものなのかを記述する設問の正答率は、全国平均を5%以上下回っていました。</p>
<p>「生命」を柱とする領域</p>	<p>○ナナホシテントウの成長記録を、別の情報を追加して書き直す設問の正答率は、全国平均を5%以上、上回っていました。</p> <p>●観察結果を別の視点で分析した場合に見出される問題は何かという設問の正答率は、全国平均を5%以上、下回っていました。</p>
<p>「地球」を柱とする領域</p>	<p>○示された仮定が正しければ結果はどうなるかを問う設問の正答率は、全国平均を5%以上、上回っていました。</p> <p>●結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ設問の正答率は、全国平均を10%以上下回っていました。</p>
<p>児童質問紙 理科に関連する質問 問 61～69</p>	<p>○理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う、将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う、という回答の割合が全国平均よりも5%以上高くなっています。</p> <p>●全ての解答を文章などで書く問題で、最後まで解答を書こうと努力した、と答えた児童の割合が、全国平均を5%以上下回っています。</p> <p>●解答時間が充分だった、と答えた児童の割合が、全国平均を5%以上下回っています。</p>

# 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果分析（児童質問紙）

池子小学校

## 特徴的なことや課題と考えられること等

- ・携帯電話、スマートフォンやコンピューターなどの ICT 機器の所持率がわかる質問が 3 つありましたが、その結果から、所持率は全国平均を 5%以上、上回ることがわかりました。
- ▲「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と、言い切れる児童の割合が全国平均よりも低めです。
- ▲「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した割合が全国平均より低めです。
- ・次の2点のことから、教育に力を入れている家庭が多いことが伺われます。
  - 平日の家庭での学習時間が 3 時間以上、土日休日の家庭での学習時間が 4 時間以上という割合が、全国平均も県平均も上回っている。
  - 授業時間外の 1 日の特書時間が 1 時間以上、家にある本の冊数が多い、新聞を読んでいるという割合が、全国平均を上回っている。
- 半数近い児童が、地域で勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりしています。その結果か、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある、と回答した児童の割合が高いです。

## 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

池子小学校

### 調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

今回の調査結果から、ペーパーテストで測ることのできる学力は「概ね良好」ということができます。

課題を挙げるとすれば、「書く力」にやや難があるということです。漢字を文や文章の中で正しく使うこと、問題の解答をまとめた文章で書くこと、を苦手とする児童がやや多いようです。低学年のときから、日常の授業の中で、自分の考えを文章にして表すことを習慣化させ積み重ねていきたいです。また、漢字練習のさせ方にも再考が必要だと思います。低学年の時からドリルでの漢字学習には熱心に取り組んでいます。しかし、そのやり方は今の時代には合わないのではないのでしょうか。一つひとつの文字をきちんと書けるように指導することももちろん大切ですが、実際にどう使うか、という指導にもう少し力を入れた方がいいように思います。

算数は、とても良い結果でした。少人数指導、T・T、能力別でのグループ指導、と、内容や児童の状況に合わせて、指導方法を工夫してきた成果だと捉えています。今後も、積極的に学級の枠にとらわれない、様々な学習形態を取り入れていきたいと思っています。